市役所は毎週土曜日を開庁しています（午前8時30分～午後5時15分※正午～午後1時は除く）　毎週水曜日は午後8時まで開庁時間を延長しています

保健ガイド

保健センター ☎552・0061

◆子宮がん検診

期間 5月1日(月)～31日(水)
場所 市内指定医療機関
対象 市内在住の20歳（平成18年4月1日現在）以上の女性で、17年度に子宮がん検診を受診していない方
定員 約200人（定員を超えた場合は、8月に繰越します。）
検診方法 医療機関による個別検診。細胞採取と細胞検査
費用 無料
申込み 4月7日までに往復はがきで保健センターへ。

◆乳がん検診

期間 5月1日(月)～31日(水)
場所 市内指定医療機関
対象 市内在住の40歳（平成18年4月1日現在）以上の女性で、17年度に乳がん検診を受診していない方
定員 約125人（定員を超えた場合は、8月に繰越します。）
検診方法 医療機関による個別検診。マンモグラフィ（乳房X線撮影）と視触診
費用 40歳代の方は1,300円、50歳以上の方は800円。
申込み 4月7日までに往復はがきで保健センターへ。

◆骨密度測定健診

対象者にご注意ください。
期間 5月1日(月)～31日(水)
場所 市内指定医療機関
対象 市内在住で平成18年4月1日現在を基準に40・45・50・55・60・65・70歳の女性。
定員 75人（定員を超えた場合は、8月に繰越します。）
健診方法 医療機関における個別健診。X線による第二中手骨密度測定。
費用 無料
申込み 4月7日までに往復はがきで保健センターへ。

往復はがきの書き方

往信・表 〒197－0011 福生市福生2125番地3 福生市保健センター
往信・裏 ①住所②氏名③生年月日④年齢⑤電話番号⑥○○検診（健診）希望
返信・表 ご自分の住所・氏名を記入してください。
返信・裏 何も記入しないでください。

※ひとつの健診につき1枚です。

〔往復はがき記入例〕

〒197-0011	返信裏
往信 福生市福生2125-3 福生市 保健センター	何も記入しないでください。

〒197-●●●●	往信裏
返信 ご自分の住所 ご自分の氏名	①住所 ②氏名 ③年齢 ④生年月日 ⑤電話番号 ⑥●●健診希望

※往復はがきの記載内容に不備があると受診できませんので、ご了承ください。

問合せ 保健センター

4月の休日診療

診療時間	内科・小児科（昼間） 午前9時～11時45分 午後1時～4時45分	内科・小児科（準夜） 午後5時～9時45分	歯科休日診療 午前9時～正午 午後1時～5時
2日(日)	福生市休日診療所 福生2125-3 ☎552・0099	羽村市休日夜間急患センター（羽村市役所裏） 羽村市緑ケ丘5-1-2 ☎555・9999	青梅市休日歯科診療所 青梅市東青梅1-174-1 ☎0428・23・2191
9日(日)	福生市休日診療所	福生市休日診療所	青梅市休日歯科診療所
16日(日)	福生市休日診療所	福生市休日診療所	青梅市休日歯科診療所
23日(日)	福生市休日診療所	福生市休日診療所	青梅市休日歯科診療所
29日(祝)	福生市休日診療所	高水医院 瑞穂町箱根ヶ崎282 ☎557・0028	青梅市休日歯科診療所
30日(日)	福生市休日診療所	羽村市休日夜間急患センター	青梅市休日歯科診療所

※医療機関が変更になる場合もあります。受診の際は保険証をご持参ください。

4月の乳幼児健康診査

健診名	対象	健診日	受付場所・時間
3か月児	平成17年12月生まれ	18日(火)	保健センター 午後1時～1時45分
6か月児	平成17年10月生まれ	満月齢後の6・7か月期	個別健診です。通知はしません（3か月児健診の際、受診票を交付）。都内の指定医療機関で受診。
9か月児	平成17年7月生まれ	満月齢後の9・10か月期	
1歳6か月児	平成16年9月生まれ	25日(火)	保健センター 午後1時～1時45分
3歳児	平成15年3月生まれ	4日(火)	
備考	◆各健診とも母子健康手帳を必ず持参。 ◆6、9か月児健診は受診票も必要です。		

成人対象の保健事業の年間予定については4面に、乳幼児の予防接種、乳幼児健康診査などの年間の予定は5面に掲載していますので、あわせてご覧ください。

医師会だより

治らない病気と付き合っていくには

医療と介護の本来の目的は、病気を治すことです。しかし、人間には自然現象としての老化とそれに伴う病気の発症があり、生物学的にどうしても避け得ない寿命があります。そのため、治らない病気があるわけです。

そこで、予防や早期発見・早期治療が、今後益々重要になってきます。しかし、どんなに医療と介護が進歩しても、不治の病と老化と死から、人間は逃れることができません。では、私たちはどうすればいいのでしょうか。

止むを得ないのですが、治らない病気と末永く付き合っていくしかありません。そこで、それに対応してくれる医療機関や介護施設を探さなければなりません。では、その選定基準はなんでしょうか。近いから、親切だから、等々、いろいろな理由があるでしょうが、やはり基本的には、しっかりした医療と介護のスタッフとシステムが整備されていることでしょう。悪性腫瘍や精神疾患といった高度の知識や技術が必要な場合は、専門の医療機関を選択すべきです。

しかし、安定した病気や治らない病気の場合は、最寄りの親切な医療・介護スタッフに定期的に診てもらうのがいいでしょう。

さらに、在宅医療や終末期医療にも対応できるスタッフとシステムを有する医療機関を探すことも必要です。人生を終えなければならないという究極の状況も想定して、「最期を看取ってもらいたい」と思えるような学問・教養・人格を持った信頼できる主治医を探してください。

治らない病気と最期まで付き合っていくには、医療・介護スタッフはもちろんのこと、患者さんやご家族にも、知識・技術・人格の陶冶（とうや）が必要になってきます。人間は神様ではありませんので、残念ながら医療や介護にも間違いや失敗は必ずありますが、それでも許し、助け合うことができるような人間関係を、日頃から構築しておくことが必要です。心温まる医療と介護が可能なスタッフとめぐり会い、ご本人とご家族が協力してはじめて、人生の後半を楽しく過ごし最期を幸せに迎えられるのです。

文責　土屋医師

問合せ 保健センター

市民のひろば